

平成26年度第2回 神戸市保健医療審議会 保健医療連絡協議専門分科会

1. 日時 平成26年10月23日（木曜）午後3時25分～4時46分
2. 場所 三宮研修センター7階 705会議室
3. 議題 ①病院開設許可事務に係る意見について（神戸平成病院（仮名））
②病院開設許可事務に係る意見について（パルモア病院）

事務局より定足数の確認（委員総数19名中13名の出席で有効に成立）、資料の確認

【病院開設許可事務に係る意見について（神戸平成病院（仮名））】

事務局より資料3に基づき病院開設許可事務に係る意見について概要説明。

神戸平成病院（仮名）より資料4に基づき病院開設事前協議書概要説明

[質疑等]

●委員

2ページの開設趣旨の3行目に「高度急性期医療終了後の患者が治療終了後に必要な・・・」という3行がありますが、この認識は神戸医師会と一致しているのかということ、神戸市医師会の方に認識としてお尋ねしたい。後段で、「高機能な回復期リハビリテーションを行うために」ということで、今の逋信病院の診療科にプラスしてリハビリテーション科を設けられると、そして、在宅療養後方病院としての機能を整備して、在宅で療養している患者さんや介護保険施設の入所者などの緊急入院治療にも対応されると書いていますが、具体的にどのような体制で行うのか、お尋ねしたい。

●副分科会長

今、委員から、神戸市医師会の考えと一致しているかというご意見がございましたけど、高度急性期医療終了後の患者さんを、次のステップでどこに振り分けるかということ、神戸市内で苦勞しているところがありますので、開設の趣旨にあるようなコンセプトで受け入れていただくことについては、神戸市医師会もそれがスムーズにいくということは願っているところですので、特に問題はないと考えています。

○開設者

高度急性期治療後の患者さんを迅速に受け入れというのは、市民病院とかから、まず高

度急性期での治療が終わったら、すぐに受け入れられるような体制を整えたいと考えています。

リハビリテーションに特に力を入れて、いち早く在宅復帰を目指したいという思いです。「在宅療養後方病院としての機能を整備し」というものは、開業医の先生方と強く連携をして、開業医の先生方で、ちょっと1泊2泊入院させて、すぐに帰れると思うような患者さんをどんどん受け入れて、適切に治療して、もとの開業医の先生のところに戻っていただくという機能というイメージです。

●委員

在宅診療をなさる開業医の方と密接に連携されるということですか。

○開設者

はい、していきたいと思ってます。

●委員

在宅での看取りとかは開業医さんにお任せになるということですね。

○開設者

開業医の先生方ができるのであればということですが、それも当院でということであれば、随時、開業医の先生と話し合っていきたいと考えています。

●委員

病床というのは高度急性期、急性期、回復期になっていますが、高度急性期で、要するに急性期と回復期をあわせたようなことをしていくということですか。それと、高機能な回復期リハビリテーションは、具体的にどのようなことをイメージされているのですか。

○開設者

急性期、回復期、慢性期という分類で言うなら、回復期よりちょっと急性期に寄っていた感じのイメージです。一般的に急性期のICUを出たら、もう回復期だというふうな意見もありますが、大体そういうイメージです。一般病床と回復期をあわせたような、今、委員がおっしゃったようなイメージです。

高機能な回復期というのは、まずリハビリ訓練の頻度です。保険制度で1日6単位というふうに決まっていますが、必要な方には9単位でも10単位でもやってあげる。今、当方のリハビリでは、朝起きてから夜寝るまでずっとリハビリだという考え方でやっていますので、より生活に合ったリハビリテーションをイメージしています。

●委員

南淡路病院ではそういうことを、現にされているのですか。

○開設者

南淡千遙会は精神科がメインの病院ですので、南淡千遙会のほうではOT（作業療法士）さんが特にそういうことをしていますが、ちょっと回復期という形ではないです。ただ、島内にある関連病院のほうではそういうふうなリハビリテーションを行っています。

●委員

医師はほとんど現在の通信病院の先生とのことで、理学療法士、作業療法士を増員予定。ということは、医師の方は余りリハビリテーションになれておられないんじゃないですか。

○開設者

それについては、うちの理事が神戸通信病院のほうに応援に行く予定でして、理事の中に脳外と整形がそれぞれいますので、その助言をもらいながらやっていきたいと考えています。

●委員

通信病院は日高院長のもとで、看護スタッフ等々は基本的には非常に呼吸器が強いが、残念ながら呼吸器のドクターがいなくなった経緯があります。結構、病院の医療スタッフの質は高いと思います。ただ、リハビリがこの人員では何もできないということなので、やっぱりリハビリをきちんとしていただきたいなということと、リハビリの目指すところは、どういうリハビリですか。脳外、整形、例えば心臓リハビリとか、そこら辺まで踏み込むわけですか。

○開設者

心臓リハビリはちょっと特殊性もありますので、最終的には目指す形ですけども、まず、脳外とか、整形とか、あと呼吸器とかはしっかりしていきたいと考えています。

●委員

それでいいと思います。あまりやりすぎても、どこまでやるのかなという感じがある。

それから、看護単位が、10対1と書いてあるのと15対1と書いてあって、今、10対1は無理ではないか、10対1でやれるのですか。

○開設者

いま現在10対1です。

●委員

入院基本料の施設基準は何日でしたか、60日でしたか。

○開設者

21日です。

●委員

その後の患者さんを送る連携先等はあるんですか。

○開設者

一部を地域包括ケア病床に移すことによって、地域包括ケア病床は60日ですので、そのあたりでしっかりとリハビリをやっていきたいということと、長田区や西区に、関連の老健も持っています。

●委員

我々や神鋼病院、神戸大学附属病院などの急性期病院が、通信病院にお願いした後、通信病院で患者さんが詰まってしまったら具合が悪いので、その辺の連携をよくしていただき、患者さんの流れをよくしていただくような努力がしていただけると非常に助かるかなと思いますので、リハビリの充実と合わせて、非常に期待をしておりますので、ぜひ充実した医療を目指していただけたらと思います。

●委員

急性期機能を持つ一般病床と、それから地域包括ケア、回復期病床を持つということですが、その比率について、どの程度一般病床というか、急性期の病床をお持ちになるのか。その目的が、今、家庭にいる人たちだけを入院対象とするだけで、救急はしないという計画ですか。

○開設者

病床の比率についてですが、今、病棟が2つありますので、半々ぐらいをイメージしています。そこでは在宅の方しか診ないとかではなく、老健でちょっと悪くなった人とか、もちろん在宅の人もそうですし、一般の外来から入院させるという通常の一般病棟の機能を果たしたいと考えております。

●委員

救急はとらないということですか。

○開設者

救急に関しましては、院長ともずっと話をしているところですが、ニーズが上がって来た時に救急をとろうという考え方でいます。

●委員

10対1で救急という結構きつく、15対1だと無理だと思いますが、ナースの数が、大丈夫かなという気がします。

それから、リハビリを中心にしてやりたい、強化したいということですが、今の病院のリハビリの施設をそのままお使いになるわけですか。建物の改造とか、そういうことはお考えになっているのですか。

○開設者

今のリハビリはちょっと手狭でございますので、増やしていく、用途変更等でリハビリスペースを確保していく必要はあると認識しております。ただ、急性期、高度急性期のリハビリとは違って、恐らくベッドとか病床でやっていくリハビリが多くなるというふうな認識もございますので、そのあたり、入って来られる患者さんとのバランスによって、どこまで広くするかというのは検討していきたいと思っております。

●委員

始まってからリハビリの施設を考えていくということですか。

○開設者

まずは今の機能のまま移行して、実はここをリハビリにしようというところは考えてはおるんですが、そのあたりは4月以降に変更していきたいと考えています。

●委員

在宅医療の場合の後方ベッドという形で対応していきたいということですが、神戸ですと、現在、在宅医療に取り組んでおられる先生方の非常に強い要望として、バックベッド機能というのが欲しいという要望があります。

しかしながら、現実には、開院当初、稼働率を上げるということで、どんどん入院を受け入れると思います。だけど、一たん入院してしまうと、現実には、独居の老人の方であるとか、老々介護のような状況のために、ある程度落ちついたら、退院していただきたいと言っても、なかなか出ていくことがなくて、動きが非常に悪くなってしまいうような可能性があるんです。その辺のところについて、淡路のほうで経験された何かノウハウというのがおありかということが一つと、それから、もう一つは、入院を受け入れる際に、何か特定の要件というか、条件というか、そういうものをお考えなのかをお聞かせいただきたい。

○開設者

まず、患者さんの受け入れの要件に関しましては、特に設けるつもりはございません。

必要とされる患者さんは受け入れていきたいと考えています。

それから、南淡路病院に関しましては、精神、療養ですので、やや長期になる方がいらっしやっただとしても、そんなに問題になることは特になのが現状です。

淡路島は土地もありますので、横に老健があつたりとか、高齢者住宅があつたりとかで、病院での治療がなくなって、どうしても家に帰れない方はそちらの方に転院してもらつたりとかしておりますので、特に問題はなくて、今の神戸通信病院のほうでも特にそういったことで困つたというケースはないとのこと。

●委員

現在想定しておられるような形で順調に動けばいいのですが、やはり患者さんの動きが悪くなる可能性も高い地域ですので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

●委員

今の点がやっぱり一番気になります。急性期での治療が終つた患者が転院して、その次がなかなか難しい。だから、民間病院協会、医師会とみんなで一体となつてその動きをよくするというような格好にして、そこをよくしていかないと、なかなかすぐに詰まっちゃうかなという感じがするので、ぜひよろしくお願ひします。

●委員

病棟の機能ですが、地域包括ケア病棟を持たれて、診療報酬上の回復リハビリ病棟は持たない、機能としては高度なリハビリを目指すということでもいいのでしょうか。

○開設者

はい。

●委員

2 ページで基準看護は15対1 と書かれてまして、7 ページには10 : 1 を目指すということですけど、2 ページの15対1 というのは、現在のことを記載しているのですか。

○開設者

すみません、医療法的な考え方、3対1とかですね、それを15対1というふうに置きかえて書いています。ちょっとわかりにくい書き方で申しわけないです。

●委員

そうしましたら、看護師さんとリハビリのスタッフ、OT、PTに関しましては、4 ページの配置計画のところ、看護師関係は現状でとりあえずいつて、理学療法士関係はこの両方で30人にふやしていくという、ことでよろしいでしょうか。

○開設者

はい。

●副分科会長

この資料の6ページのところに地元の医師会の意見書が出ておりますけれども、そのとおりだと思います。今までの通信病院の地域医療のために尽力されてきたところは引き続き続けていただく、プラス、リハビリにしっかり注力していただけたらということですが、地元の医師会とは、病院の名称、仮称神戸平成病院になっていますが、この名称も含めて話し合いをされたのでしょうか。これが最終病院名になっているのでしょうか。

○開設者

名称については、まだ医師会とは話できてないです。事業譲渡の話や当院が目指すものですね、先ほどからご質問を受けています地域包括やリハビリに力を入れるという話は十分しています。

●副分科会長

名称に関しては、ある程度、医師会としての内部的な基準等がございますので、それに関しては、再度相談されたほうがいいと思います。そのほうがスムーズにいくと思います。

○開設者

早急にしようと思います。

●分科会長

いろいろご意見は出ましたけれど、ほかには、よろしいですか。

ないようでしたら、ご説明いただいた関係者の方、どうもありがとうございました。

(神戸平成病院(仮名)関係者 退席)

【病院開設許可事務に係る意見について(パルモア病院)】

パルモア病院より資料5に基づき病院開設事前協議書概要説明

[質疑等]

●委員

4ページの人員配置で、医師の予定数、確保済数が12.4名ですが、産科、小児科の先生、それぞれ何名ずつになるのですか。

○開設者

現在、産科に関しましては常勤医が3名、外来に関しましては非常勤医が常時3名おり

まして、あとお産の当直帯ですね、時間外の当直、日直に関しては、月によって違いますが、最低4人、場合によっては7～8人になることもあります。小児科に関しましては、現在、産休中の小児科医が1人いるんですけども、そのほかに4名、常勤医がいます。

●委員

救急と言われましたが、小児科一般の救急も受け入れるのですか。

○開設者

実は救急に関しましては、HAT神戸の神戸こども初期急病センターにお願いしております。ただ、いわゆる時間内に来られた病児の方に関しましては、必要であれば入院を受けるということは可能です。

●委員

場合によっては神戸こども初期急病センターからの後送病院といいますか、そういうようなことも……。

○開設者

その辺に関しては、あまり実際はやってないと思うんですが、ただ、恐らく何かそういう事情があれば考えないではないよという感じだと思います。

●委員

パルモア病院は、神戸の誇りと思っていますので、ぜひ頑張ってくださいと思います。

○開設者

ありがとうございます。

●委員

パルモア病院は本当に、神戸の誇りなので頑張ってくださいと思っているんですけども、小児科に関しましては、実は私どもの病院も先生とこで小児健診をやらせていただいております。それで、やはり産科と小児科のある病院というので非常に歴史のある業績のある病院ですから、これからもさらにもっと以前の輝きを取り戻していただいて、どんどん若い医者教育もしていただいたらと思いますので、お願いいたします。

それで、救急、小児科の救急に関しましてですけど、今まで二次救急に入っていたいていまして、最近はあまり出てないと思いますが、以前の二次救急と違いまして、HAT神戸の神戸こども初期急病センターができましたので、プライマリー、初診の患者さんと

どうか、一次がほとんどないんですね。ほとんど二次の患者さんだけなんで、1日の入院が1人とか2人とかそういうぐらいなものですから、ぜひこれから二次救に入っていて、協議会全体で、小児救急が問題でございまして、ぜひ協力していただきたいと思えます。

○開設者

小児救急に関しましてはご指摘のとおりでして、ただ、今ちょっと小児科医が少なくなったことであるとか、看護用員等、病院の体力そのものがないということなんですけど、実は小児科の充実がやはり分娩数の確保にもつながっているという認識がございまして、その辺、ぜひ病院の体力をつけて、将来的にはもちろんそういう方向で地域医療に貢献させていただきたいと考えております。

●副分科会長

今回この資料を読ませていただきまして一部誤りがございまして、ちょっとご指摘させていただきます。

7ページの2の(3)の①の「病院の状況」の神戸マリナーズ厚生会病院、146床は199床の間違いだと思えます。

8ページの「診療所の状況について」の2行目の藤本産婦人科医院は、かなり前に廃院されていますので、これもこの資料から抹消しておいていただいたほうがいいと思えます。

その次の永遠幸神戸元町夢クリニックというのは、医師会では全く把握してない診療所ですけれども、これもご確認ください。

先ほど来ご意見が出ていますけれども、パルモア病院さんは、全国的に有名な病院でございまして、ぜひ今回の新たな体制で、以前のような、地元だけじゃなくて、周囲から集まるというようなところまでいっていただいて、救急についてもしっかりお願いしたいと思えます。

それから、地元医師会としては、6ページに書いていますように、非常にほっとしているということございまして、非常に期待は大きいということございまして。地元の中央区におきましては、ほかに上田病院というところもございまして、そこの2つがとにかく頑張っておりますけれども、やっぱりパルモア病院が今まで以上に頑張ってもらわないと、神戸は、お母さんが産んで、やっぱり娘はそこで産ませたいという方が非常に多いですので、その伝統を生かして、それを強みにしっかりと再生、引き継いでいっていただきたいと思えますので、よろしくお願いたします。

●委員

行政の母子保健事業にも非常にご協力いただいておりますけども、病院自体が中身が変わるわけではございませんので、そのままの形でまたご協力いただけたらと思いますが、母子保健全般に関してのご協力に関して、また今後どうされるかということをお聞かせいただきたいと思いますということと、それと、あまり細かいことは私自身もわからないんですが、資金計画を、簡単に結構ですので、ちょっと説明していただければと思います。

○開設者

まず、母子保健に関しまして、いわゆるお母さんの妊婦健診等は、当然、神戸市の補助金を使わせていただいてやっております。それから、赤ちゃんに関しましては、定期的な健康診断、ワクチンの接種等。ワクチンに関しましては、かなり当病院は当病院で生まれておられないお子さんに関してもさせていただいておりますので、これも、従前どおり、やっていきたいと思っております。

それからちょっと離れるかもしれませんが、さっき委員がおっしゃった、いわゆる教育の面でございますけども、研修医の教育ももちろんさせていただきたいと思うのと、もう一つ、うちは非常に多くの看護学生の実習を引き受けておりまして、これもやはり、今、看護師の養成が非常に高度になってきているということから、母子保健に関しましては、うちはどこにも負けないような教育体制を持っておりまして、これからもそれで努めさせていただきたいというふうに考えております。

○開設者

10ページのほうに、「開設に要する資金」という資料を添付させていただいております。

まず、今回のパルモア病院の純心会への引き受けについては、医療に必要な事業に関する土地建物、固定資産、有形固定資産、その他資産について、医療に関するものだけを譲り受けるという前提での資金計画になっております。

まず、こちら、一番上のほうの段からいきますけども、土地に関しては、現在パルモア学院の所有になっておりまして、パルモア学院から病院の底地を購入するという形になっております。また、付属の駐車場に関してはパルモア病院の所有になっておりますので、純心会に土地は譲渡という形で、合計しますと、所要額8億1,000万円。

建物については、パルモア病院の所有になっておりますので、パルモア病院から購入するという形で、金額的には4億3,900万。

医療機器及び什器備品購入という形になりますけども、そちらもパルモア病院からの購

入になりますので、1,500万プラス100万という形での購入になります。

諸税といたしましては、建物については固定資産取得税等かかりますので、5,000万円程度、こちらに計上させていただいております。

あとは、開設時の運転資金ですけれども、医業収益の大体2カ月分相当、ここまで要るかどうかというのはありますけれども、安全を見て2カ月分1億7,500万の運転資金の調達を考えております。

その他の費用については、火災保険、また医薬品。

あと、営業権というような形で、パルモア病院というのは非常に今後収益を上げていくという形で考えられておりますので、パルモア病院に対する超過収益力という形で6,000万円の計算をさせていただいて、合計15億6,100万という形で今回の事業を考えております。

こちらの資金調達に関しては、現状、純心会にもかなり資金余力はございますけれども、一たんは香川銀行で全額借入をするという方向で現在は調整しております。こちらは少し流動的になる可能性はありますけれども、現在は全資金については香川銀行で調達する。その調達にあたっては、期間10年で毎月120回払いということで、利率1%を予定しております。この10年というのは、土地なんかを考えますと、厳しいものでありますけれども、純心会の、現状の資金余力、体力等を考えますと、10年でも返済可能な金額であるということで、現在は10年という形でさせていただいております。

その下については資金の返済計画ということになりますので、ご確認いただけたらと思います。

●委員

参考までにちょっとお聞きしたいんですけど、現在、兵庫県で、臍帯血バンクというのがあるんですけども、採取病院、臍帯血の採取病院というのが県内で10幾つかあると思うんですけども、パルモア病院のほうで今後こういう事業に参加なさるとか、現在、取り組んでおられるという、お考えがありましたらお聞かせ願います。

○開設者

現在、参加をさせていただいております、数はあまり多くないんですけども、妊婦さんにも広報いたしまして、ご賛同いただける方からはとらせていただいております。今後ともそれは続けていきたいというふうに考えます。

●分科会長

ほかにご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

どうもありがとうございました。

(パルモア病院関係者 退席)

〔意見交換 神戸平成病院（仮名）〕

●分科会長

まず、仮称 神戸平成病院について意見交換を行いたいと思います。

何かご意見はございますか。もうかなりご意見はいただいたとは思いますが、追加のご意見はございますか。

●委員

私が懸念したことは、精神科を中心にした病院でしたけれども、今度、神戸にいらっしゃって、在宅療養というのを中心に発展させるという話でしたけど、話を聞いてみましたら、私の聞き違いかしりませんが、他の医療機関に非常に連携を依存しすぎるといふような印象がありまして、それがたらい回しみたいなのが頻繁にされるんじゃないかという懸念がありましたので、それだけちょっとお尋ねしたいなと思ひまして。

●委員

全部はよくわかりませんが、現在までの我々との連携は、特に呼吸器疾患が非常に強い病院で、関連する病院との連携もとっておられまして、神鋼病院からも神戸大学附属病院からも患者さんが行きますので、すぐいっぱいになっちゃうんです。だから、後方連携をしっかりといただかないと、なかなか力が発揮できないかなというのをちょっと懸念しているという感じで、たらい回しとかそういう感じでは、今までのところは、そういう経験は全くしておりません。悪くなったら、すぐにまた元の病院とかに送られますので、患者さんに対して不利益になるというような感じの経験はしたことはありません。

●分科会長

神戸大学医学部附属病院のほうも、結構、お世話になっているので、そういう今言われたような懸念はまずないとは思いますが、委員が言われるように、大学から今度またお願いしたときに、もういっぱいという状況が起こらないように、先ほど意見がありましたように、うまく後方との連携をとっていただいて、同じ人がずっと長期間いて、新しい人がなかなか入れないという状況にならないことは、恐らく先ほどご意見が出ましたから、それはご理解いただけたというふうに思いますが、

●委員

今のおっしゃったようなのは、そういう地域連携室みたいなものがうまくいっているということなんですか。

●分科会長

通信病院の中で、先ほど言われたように、後方病院との連携をうまくされないと、神戸大学医学部附属病院からとか中央市民病院から今度お願いするときに、受け入れのできない患者さんがずっと同じ状況で病院の中に残ってしまう。結局、その病院の機能としては、回復リハビリテーションとか、いわゆるちょっとした急性期、ちょうど神戸大学医学部附属病院とか中央市民の高度機能の病院から次の受け入れをしていただくときに、先ほど言われた通信病院としてのミッションがなかなか果たしにくくなるので、そこを通信病院としては、後方連携を充実し、スムーズにさせていただいて、先ほど言われた機能をうまく果たしていただきたいというのが、一番だと思います。

●委員

その辺は、改めてそういう連携を上手にやってほしいというような要望はしておく必要があるんでしょうか。

●分科会長

それは先ほどもご意見が出ましたが、しておいたほうが良いとは思いますが、せっかく回復期リハビリテーション機能を充実させられるという状況だと思いますので。

●副分科会長

そこが一番の問題で、高度急性期病院からの患者さんの流れと、在宅でいたけれども、急に悪くなって入院を受け入れるということと、上からと下からと両方の方がおられまして、やっぱり流れが詰まっていますと、なかなかスムーズにいかないということで、今も通信病院の地域連携室はうまく機能していると思うんですけども、名前がかわって病院のスタイルがかわると、今まで以上に病院自身の地域連携室の役割が非常に重要になるかと思っていますので、その辺は、再度、地元との連携ということを今まで以上に強く意識していただくということが必要だと思いますし、医師会はそれを十分にサポートしたいと思っています。

●参与

リハビリの機能のプラスアルファと、後方支援のところを言ってらっしゃるんですけど、そこについては未知数でございますので、そこはぜひ医師会のほうも見ていただいて、そ

れと、老健施設も持っているようでございますので、今ご心配になられたようなことにならないように、ぜひお願いしたいと思っております。

●委員

ほかの委員の方と同じ意見なんですけども、急性期と、ご自分の病院と、あと後方の病院、それから診療所の連携のことについて、分科会の意見として書いていただくことと、各職種の確保に努めていただきたいということの2点は強調して意見として書いていただければと思っております。

●分科会長

特に人員の件は、リハビリが中心の中でまだ確保済みの方が非常に少ないんで、理学療法士と作業療法士に関してはぜひとも充実させていただきたいという、その点も追加していただいて。

●委員

リハビリ室が、100平米しかなく狭いですね。リハビリを強化するというと、あまりにも狭すぎるんじゃないか。今、お話では、ベッド上でやるとなっているんですが、ということは、寝たきりの人をたくさん入れようというふうな話になってくるんじゃないかと思うんです。ちょっと矛盾があって、そこに寝たきりの人をいっぱい入れて、どんどん入れていきますということは、先ほど皆さんがご心配なように、長期間の入院になると思います。だから、やはりもっとリハビリ機能を強化するということは、リハビリ室を強化することが重要ではないかと思うんですけど。

●分科会長

リハビリの人員の問題もありますけど、施設としてのリハビリ室を充実していただくという点も、じゃあ、要望するということで。

●委員

どうも我々のイメージとしては、逡信病院としてお付き合いが長かったもので、開設者が変わって、あの地域の方の地域密着型病院として具体的にどういうふうな運営をするのかなと。大病院との連携はつくると言われたけども、実際、今置かれている筒井町全般を含めまして、医師会や地域の医療機関その他と、どういうふうな密着した病院になるのか、イメージがもう一つ湧かないんです。これまで逡信病院としては民間病院協会としてはあまりお付き合いがないので、今度、淡路から出てきてどうお付き合いするのか、二次救もされるのか、ちょっと見えなかったんです。今後、だれにどう話していけばいいのかなと

思うような感じがいたしました。

●分科会長

そうですね、まあ、中央区医師会のほうからは意見書が出ていますけど。その辺は、先ほど副分科会長からも少しご意見ありましたけど。

●副分科会長

従来の通信病院とは、少なくとも年に1回は地域の医師会、開業医との交流会がありましたけれども、それを今回これを機にもう少し強化して、今まで以上に連携を強くしないと、今までせっかくいい連携があったところが離れていってしまう可能性があります。ですから、リハビリをどうするのかも含めて、やっぱり説明会等が必要じゃないかと思えますので、今後、地元医師会との連携はかなり必要です。

●分科会長

ほかにご意見等はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、神戸平成病院に関しましては、今いただいたご意見をまとめて、県のほうにこの会としての報告をさせていただきたいと思えます。

[意見交換 パルモア病院]

●分科会長

続きまして、パルモア病院に関して意見交換を行いたいと思えますけど、何かご意見等ございますでしょうか。

ほぼ事業継続というような状況で、大きく事業内容は変わらないと思うんですけど、いかがでしょうか。

今されてる、1.5次というふうにさきほど言われてましたけど、あまり重症な分娩は恐らく受け受け取らない形ではされると思うんですけど、地域の、患者さん以外にも、看護師さんの教育とか、いろんな予防接種の件とか、その辺の活動は十分果たしていかれるというご説明ございましたので、よろしいですか。

●委員

ちょっと教えていただきたいんですけど、周産期医療で、妊婦さんは、産前産後非常に不安定になられる方もおあるということなんですけども、そういう妊婦さんに対する医療的な対応というのは、現在のこの診療科で十分対応できることなんでしょうか。連携病院

と協力することで解決していくというふうなことに。

●分科会長

恐らく、1.5次ということで、あまり重症化するような分娩は受け取られないと思うんですけど、ただ、精神的に、産前産後、不安定な状況だと思うので、もし何かあれば、さらに高次の病院とすれば、神戸大学医学部附属病院もありますし、中央市民とか、あるいは神戸赤十字もありますし、その辺とは、重症化するようなことがあれば連携はとられると思いますけど。

●委員

国の事業で産後ケアという事業がありまして、それは主に産後で、体の病気は問題ないお母さんの精神的な面を、ちゃんとケアしなければならないという事業があって、それを、今も続けているということで、それに力を入れていく方向である病院だということは、担当のこども家庭局のほうから聞いています。

●委員

ちょっと補足で、東灘で1回不幸な事件がありましたね。あの件も、行政が産後うつとかのチェック項目があって、境界線だったらしいです。でも、結局ああいうことになったのでというようなことで、いろいろ反省もされているので、病院内でも行政も十分その辺は保健師さんがケアはされているようですけど。

●委員

今のご指摘はね、うちの病院もそうですけど、妊娠中は、やっぱり助産師さんが非常にケアをしています。医者の診察はすごい短いんです。助産師さんが時間をものすごくとって、妊婦さんの不安なところをずっと聞いて差し上げたりしていますから。それと、産後というのは今の行政的なサポートがありますから、それでいけるんじゃないかと思いますけどね。

●分科会長

ほかはよろしいですか。特にご意見ございませんでしょうか。

それでは、このパルモア病院に関しましても、今いただいたご意見を追加して報告したいというふうに思います。

そういうことでよろしいでしょうか。さらに追加しておくようなことはございませんでしょうか。よろしいですか。

最終的に、意見書作成の最終の文案等に関しましては、副分科会長と私で確認させてい

ただくことにさせていただきたいと思いますけども、よろしいでしょうか。

(「はい」の声)

●分科会長

どうもありがとうございました。

③その他

●分科会長

予定しておりました議事はこれで終了いたしましたので、事務局から何かございますか。

●事務局

どうもありがとうございました。

本日のご意見を踏まえまして、分科会長、副分科会長と相談しながら意見書の案を作成しまして、委員の皆様にご確認いただいたうえで、兵庫県に意見書を提出させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(3) 閉 会

●事務局

本日の議事は終了ということで、これにて当分科会を終了させていただきたいと思えます。どうもありがとうございました。